

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	1 4 5
		決裁期日	平成23年10月11日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第4回）		
日 時	平成23年9月29日（木） 午後7時10分～午後8時50分		
場 所	保健福祉総合センター2階研修室		
出席者	委員5人 町民生活課事務局3人 合計8名		

内 容

[進行：町民生活課長]

町民生活課長から、欠席した委員について報告。

あいさつ

三島会長： 第4回の会議となる。本日も議題に沿って会議を進めていきたい。

議 題

1 広報かみふらのお知らせ版10月号の掲載内容について

吉岡主幹：基本指針の載せていないのが協働に期待される効果だけであり、そこを載せると基本指針の説明は終わる。基本指針の説明を10月号でやり、終わらせてもいいのではないかと考えている。

三島会長：では、10月号はこのように進めていきたいと思う。

持安委員：10月号で期待される効果をやることは1つの区切りとしてもいいと思う。ただ、原稿の書き方はどういったものをイメージしているのだろうか。

吉岡主幹：基本指針がいていることに理由を加えて、分かりやすいものを作っていきたい。早めに原稿を作り、皆さんに意見をいただく。

松下副会長：基本指針の文言を図示するとわかりやすいかと思う。見て流れがイメージできるようなものもいい。難しい言葉を使わないで町民が見て分かりやすいものにしてほしい。

吉岡主幹：先日出席した会議（NPO主催のシンポジウム）でも行政独特の言い回しは、分かりにくい。行政は、市民との共通言語を持つとしていないとの指摘があった。行政とNPOの協議でもお互いに話していることが理解できているのか分からないという話があった。自分なりに分かりやすい文書を書いているつもりだが、どうも違うなという思いがした。

松下副会長：私も職員だったが、今思うのは、行政の言い方や文書は分かりにくい、回りくどい。

2 協働の事業の掘り起しについて

吉岡主幹：佐賀県庁では、「協働化テスト」といって、すべての事務事業をまな板に上げて、協働に向くもの向かないものがあるが、何が協働でできるかを各所管に報告してもらい、それを取りまとめている。

その結果、協働でできるものを県民に公開し、事業を提案してもらおうという形でやっている。

協働できるものを県民に公開し、県民から提案があったものに対し、「ノー」と言える理由がなければ原則「イエス」、採択となる。明確な根拠がなければ不採択にならない。

今日は、佐賀県の協働化テストを参考に上富良野町の事務事業の一部を紹介し、この中で協働可能なものとその方法について意見を頂ければと思っている。

持安委員：この佐賀県の取組みは素晴らしいものだと思う。上富良野町でも同じようにやっ
ていこうということだろうか。

吉岡主幹：これは掘り起しの手法の1つとして紹介している。

持安委員：この委員会で何をしようとしているかが重要だと思う。委員会で町民の方々に事業を公開し、提案してもらうのか。

吉岡主幹：このやり方は、協働事業に対する制度を作り、その一環として公開をして公募する形になる。

持安委員：協働のまちづくりを進めるための仕組みづくりをこの会で考えていくのだろうか。

吉岡主幹：仕組みづくりから考えていきたいし、掘り起しも行っていきたい。

北川課長：協働として実施すべき事業かどうかの検証や実施した事業の評価、助言をこの会で進めていくべきだと思う。ある事業を進めるとき、協働として実施すべき事業なのかを決めるのではなく、検証していくことが必要かと思う。あとは、実施したものの評価をしていけば難しく考えなくてもいいのではないかと思う。

また、自治基本条例の見直しもあるため、条例のどこを直すか話し合っていく場所なのかと思っている。まだ始まったばかりで掘り起しをしようとしているので、まだ直す必要がないということもあると思うが、直さなくても1度直すべきか考えなければならぬと思っている。

吉岡主幹：協働化テストを基に議論することでルールも見えてくると思い、この方法を提案した。

事務局案を作っていくという考えはなく、この会で出てきた意見から組み立てていけばよりよいものができると思っている。

持安委員：事務局は前々から今やっている事業を見直して、協働でできるかを協議してもらおうと言っておられた。しかし、この会は町民の声であり、町民の声からこんなのが協働だったらいいんでないというのが本来の姿でないか。あるべきではないかと言っていくことが本来の姿であると思う。お互いに、この事業は協働でやった方がいいとなったのであれば、検証しなければならない。大切なのは、今まで勉強や議論を交わしてきた中でできた自分の中の協働というものを話し合い、どういったものが協働であつたらいいということを今度は私たちが出すべきだと思う。

久我委員：持安委員はこの会の中で何かを考えていくということをおっしゃっているのだから。

持安委員：この会で考えていきたい。皆さんいろいろな活動をして、それぞれの思いがあると思うので、そういったことを話し合っていきたい。例えば、協働を担う企業やNPOが必要だが、担うところを作るためにどうしたらいいかまで話していければいいと思う。そして1つの事業を作ることが大切だと思う。

三島会長：協働でできる事業を挙げても相手がいなければだめである。相手を作っていく方策まで考えなければならない。

持安委員：町民が納得できる協働事業を1つ作り上げるといいと思う。せっかく前回もワークショップをやり、もう少しというところまで行ったので、みんなで協働をするためにどのようにしたらいいかを話し合うことも1つの手段だと思っている。

久我委員：前回のワークショップを基に、この会で課題を選択し、それに賛成している方を募って事業を広げていくということだろうか。

持安委員：それもいいと思う。

吉岡主幹：ワークショップは結論を出すものではなく、いい意見が出て、それに便乗して意見が

どんどん発展していくことを狙いとしたもの。

久我委員：そうなる道筋を探るためワークショップをしたと思っていた。ここで話し合ったことを広げて事業を起こしていくのだろうか。

吉岡主幹：持安委員は、前回のワークショップをさらに進めて結論を出していく方法を考えているのだと思う。そして1つのモデルを作ろうということだと思う。

持安委員：ワークショップでせっかく問題点が出たので、出た問題点に対してどう対応するかが重要だと思う。

北川課長：せっかく前回問題点が出たので、その問題点の検証会をすると、何を役場がすべきで、何を住民がすべきという道筋が見えてくると思う。

吉岡主幹：前回、問題提起していただいたものを集約する方法で解決策を考えていきたいと思う。これが結果として持安委員のいう1つの事例を作ることになると思う。

持安委員：前回のテーマは拠点づくりだったが、そのことについてだけ特化して議論したわけではなく、いろいろなことについて意見が出た。

北川課長：また結論が出ないのかもしれないが、問題の原因がわかるだけでどうしていけばいいかわかると思う。今年、住生活環境の基本計画ができ上がる。

持安委員：そういったような情報もいただければ助かる。今も空き家の問題などもある。

松下副会長：住吉にも2つの空き家があり、そのうち1つは荒れ放題の状況となっている。借りていた人がいなくなった。大家さんも地元にいらないようで管理の目が届いていない。

持安委員：そういったものはなんとかならないのだろうか。防犯、教育、景観、全てによくないものだと思う。どうやって解決したらいいのか考えていかなければならない。

松下副会長：貸したくて置いていると思うので、壊すわけにもいかない。空き家以外にも町内会加入推進の問題もある。

吉岡主幹：道町連の会議に行くとこれが課題になる。また、福祉マップによる個人情報保護の対応などもある。

持安委員：問題点を整理するために今一度地域を把握する必要があるかと思う。個人情報にしても財産にしても、もとは個人の生命、財産である。個人情報が命より大切なのかということにある。西富住民会の福祉マップはまだ完成でなく、これからも整理が必要である。西富は手上げ方式でマップを作っているが、その人がどういう状態で、どのような気持ちで手を上げたか、その人をどのように支援するかをこれから作り上げなければならない。

吉岡主幹：誰がどの人を助けるかまでは決めていると聞いている。

三島会長：災害の時は決めているかもしれないが、普段の助け合いにはならない。

持安委員：災害の時に誰を助けるか決めると、その人たちの日頃のつながりが大切になってくる。今はそれをどのように構築していくかが求められている。つながりが町内会に広がり、住民会に広がっていけば全町的に広がっていくと思う。また、そういったつながりや意識があって初めて、公園の整備や空き家について地域住民が考えていく。そしてこれに気付いてもらうために、協働の講座などがあるのだと思う。

久我委員：そうするとすごくいいとは思いますが、しんどいとも思う。こうするためにはさらに努力を広範囲に広げてさらに忙しく動かなければならないと考えてしまう。

持安委員：完璧にできるとは思っていない。しかし、できないと言ってしまえば終わってしまう。

吉岡主幹：役場に頼まれたというものは避けたいので、自立性、自主性を持ってやってもらえるといい。登別市や札幌市厚別区では住民が自主的にやっているものがある。

持安委員：支え合う地域を作ることはいいことであり、そのために集まって顔見知りになる。顔

見知りになるにはいろいろな方法があるのだが、久我委員は自発的にクリエイターの養成講座を受けられて、町中に介護予防のリーダーを養成した。今地域の中で5グループの方々が活動している。社協として、各グループの活動が本当に定着しているのか、問題点はないのかを聞くため懇談会を開く。そこで、問題点を引き出す方法を考えていこうと思っている。また、その問題点を解決するには、社協としてできることと行政でしかできないことあるので、それをぶつけていく。いろいろなグループができて、地域や仲間を超えて集まっていただきたい。

松下副会長：やっている当事者は意識が高く、やっていることによって協働のまちづくりとしての体制が培われている。やっている人は健康作りとしてやっているが、結果的にそれがネットワークとして協働のまちづくりになっていく。そういったことを大事にし、気づきあってフォローしていける体制ができればいいと思う。

久我委員：介護予防の活動をすることで実際に介護認定者も減ってきており、国民健康保険の医療費が下がったり、事故、転倒者が少なくなったりしている。

持安委員：こういった自主グループの体操や託老所に行って近所の人とつながりを持つことで見守りができる。そういったようなことを仕組みとして作っていく。原点として楽しいところには人が集まってくる。

3 今後のスケジュール

吉岡主幹：今回は前回のワークショップの話をさらに深めていきたい。今回は欠席の委員が多いため、日時は取りまとめてから決定したいと思う。

4 その他

久我委員：講演会はいつ頃開催なのだろうか。

吉岡主幹：講演会の開催は11月下旬を考えており、広報お知らせ版10月号でお知らせする。また、前回までのような大きな会場ではなく、定員40名程度の講演会を予定している。

閉 会 [会議終了：20時50分]

上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

4

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	9月29日
1	住民会長連合会	上村 勉		×
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぽぽの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		×
6	商工会	近野 直紀		×
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		×
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		×
10	公募	大内 和行		×
11	公募	徳武 良弘	8/15退任	
12	公募	久我 みち子		
13	公募	平倉 範子		×

5